千代田団地・韮山駅線に関する意見交換会結果概要

日　時	平成 24 年 7 月 26 日(木)　19:30～20:45
場　所	千代田区公民館
出席者	千代田区　区長以下 4 名 バス利用者　7 名 政策企画課　名波課長、植松係長、塩谷
要　件	伊豆の国市自主運行バス（千代田団地・韮山駅線）に関する意見交換会
打合せ事項等	**1　千代田団地・韮山駅線の運行状況について**（説明者：政策企画課　塩谷） ○平成 24 年 4 月 1 日から市自主運行バスとして、千代田団地・韮山駅間を運行。 ○平成 24 年 4 月から 6 月まで 3 か月間の運行状況を、平成 23 年度実車実験バスの評価基準で評価すると、路線全体の 1 日当たりの利用人数が 27 人に満たないため、このままでは廃止になってしまう。 ○自主運行バスを含めた行政サービスは、公費を主な財源としているため、公平性、効率性を求められる。特二路線バスは、バスが運行しない地域住民や利用する必要のない人から見れば「不公平」、あまりにも利用が少ないバスは「ムダ遣い」だと思われてしまう。 ○継続して運行するためには、利用者を増やすこと、運行しない地域住民や利用しない人に「必要性」を理解してもらうことが重要。 ○バスを含めた公共交通が本当に必要なのか？ 本当に必要としている人は誰なのか？ 本当に必要としている人のニーズに合っているか？ 本当の「必要性」を知る必要があるが、事業者も行政も把握できていなかった。 ○今までの公共交通は事業者が主体となって運行しており、「採算性」という視点から考えられたサービスだった。 ○行政は、「公共交通は事業者が運行するもの」という考え方が一般的で、路線バスが廃止される場合も、廃止を認めるのか、公的支援により継続運行するのかについては検討しても、路線の必要性や他の交通サービスへの転換の可能性については検討していなかった。 ○利用者や地域住民にとって公共交通とは、事業者や行政が一方的に提供するサービスであり、公共交通のあり方や運行方法等について、自らが考え、地域が主体的に取り組む機会がなかった。 ○平成 14 年の道路運送法の改正以降、公共交通について地域で充分な協議を行う仕組みが作られ、地域の公共交通をより良いものにしていくための取組＝「モビリティ・マネジメント」について、地域で取り組んでいくという考え方が主流になりつつある。 ○今後は、本市もより良い地域公共交通に向けて、地域と一緒に取り組んでいかなければならない。最終的には、地域が主体となった交通サービスが実現できれば良いと考えている。 ○本日、一番伝えたい、お願いしたいことは、このままでは廃止になってしまう恐れのある、千代田団地・韮山駅線の今後のあり方について、普段こ

	のバスを利用している人を中心として、地域の皆さんで考えてほしいということ。 **２　意見交換** **利用者**： ○韮山駅から千代田団地に帰る便について、10：50 から 15：20 までの間がないので 1 便でいいので運行してほしい。 ○順天堂病院から千代田団地の間を運行してほしい。 ○実際に利用者は少ない。地域で考えていく必要があると思う。 **区役員**： ○全てを行政に頼るということは今の時代には合わない。地域が主体になるとか、地域が経費を負担するということが必要だと思う。 ○過去、区がバスチケットを伊豆箱根バスから購入することが条件で、バスを運行してもらっていたが、利用者が減少し、チケットを購入することが難しくなったという経緯がある。利用者のいないバスは廃止されても仕方ないと思う。 ○この問題は千代田区だけのものではないと思う。江間地区としてどうすべきかを考える必要があるのでは。 ○バスについて地域で考えるということは必要だが、ただ意見を言い合うだけでは何も進まない。また、地域で取り組むにしても中心になって取り組んでくれるような人がいるかどうかわからない。市から他の事例を示してもらい、それをたたき台にして今後考えていく方がよいだろう。 **市**： ○利用者を対象としたアンケート調査にもいろいろな要望があった。自主運行バスなので、地域の方の合意があれば運行時間や運行ルートを変更することは可能。ただし、バスの利用目的や利用したい時間、行先等、全ての人が同じではない。アンケート結果でも、バスの利用目的は、回答数 25 件のうち、通勤と通院がそれぞれ 9 件で一番多かったが、通勤利用と通院利用とでは、利用したい時間帯が異なる。また、通勤利用はほぼ毎日だが、通院利用は、週 1～3 回くらいの利用のはず。通院利用に合わせた運行時間することが果たして本当に必要なのか、地域で考えてほしい。 ○江間地区全体の問題として取り組んでもらえれば理想的だが、最初から広範囲で取り組むと収拾がつかないことも考えられる。千代田団地はバスの発着点なので、まずこの地区の皆さんで取り組む方がよいのではないかと思う。 ○他の事例を提示することは可能。ただ、最初から具体例を出してしまうとそれに固執してしまう恐れがあるので、今回は用意していない。次回はいくつかの事例を用意したい。 **【結果】** ◆千代田団地・韮山駅線は利用者が少ないため、このままでは廃止の恐れがること、この問題について地域で考えていくことについては概ね了承された。 ◆今後、千代田区で定期的に意見交換会を開催し、地域が主体となった交通サービスへの取組を推進していくこととする。